

令和5年度 園経営全体計画

佐倉市立佐倉幼稚園

基本理念	幼児期は人格形成の基盤となる重要な時期であることを踏まえ、幼児理解と幼児との信頼関係を基に、家庭と連携しながら、健やかな成長を図れるよう、よりよい環境を創造する。			
教育目標	よく遊び、よく学び、やさしい心 と はじける笑顔			
目指す子どもの姿	○感じる子ども ・感じ心を動かして味わう ・感じたことや思ったことを表現する	○よく遊ぶ子ども ・興味や関心をもちやってみようとする	○考える子ども ・なぜだろうと考えたり試したりしてやり遂げようとする	○やさしい子ども ・身近な人や自然にかかわり、親しみや思いやりの気持ちを持つ ・思いを伝え合い、相手の気持ちに気づく
行事のねらい	園生活の連続性の中で、幼児に必要なものを行事として行う ①子どもの発達や成長を知らせる。 ②親子の触れ合いや保護者同士の関わりを促す。 ③伝統行事を知らせる。 ④健康と安全を守る。 ⑤保育を厚くし幼児の経験を広げ深める。			

特に配慮する事項

1 一人一人を大切に保育 ・一人一人の発達の状況や、興味、関心、思いなどを十分に踏まえた応答的な環境作りを行う。 ・幼児が主体的に環境に関わり、対話を重ねながら、園生活を楽しみ、充実感を味わえるようにする。	2 発達の連続性に配慮した保育 ・入園前の育ちを踏まえ、学年や期に合わせた環境を構成し、活動のねらいや目的を明確にして保育にあたる。	3 健康と安全を守る保育 ・健康な心と体の発達を促すよう、様々な動きの遊びができる環境を用意し、外遊びの時間を十分に取る。 ・安全な遊び方や災害時の身の守り方、交通安全の約束などを知らせ、自ら考えて行動できるようにする。	4 異年齢との関わり ・年上の友達への憧れや年下の友達への思いやりなど、生活や遊びの中で自然に感じられるよう配慮する。
5 家庭との連携 ・保育内容を家庭に発信する。 ・家庭との連携を密にして、安心して通えるようにし、保護者の信頼を得られるようにする。 ・園行事やPTA活動等、保護者同士がつながることのできる機会を大切にす。 ・アンケート結果を園経営に生かす。	6 食育の推進 ・野菜の栽培、収穫、クッキング・会食、給食などを通じて、食に関心をもち、「いのち」をいただくことや、関わる人々に感謝できるようにする。	7 自然との関わり ・幼児の発見や気づき、興味・関心など、五感を働かせ心動かす体験ができるよう、身近な自然と触れ合える環境作りに努める。	8 インクルーシブな保育 ・一人一人の教育ニーズに応じた教育をする。 ・家庭や関係機関との連携を図り、個々の発達に合わせた支援や指導の方法を、全職員で共通理解して実践する。
9 地域との連携・開かれた園づくり ・城址公園、菖蒲田、武家屋敷、夢咲(ら)館等、地域の自然や歴史・文化に触れる体験をする。 ・市内の幼稚園、保育園、小学校、高校との交流をもち、人との関わりを広げる。 ・園だよりの地域回覧やHP、教育ミニ集会で保育内容を発信する。	10 子育て支援(保護者・地域子育て家庭) ・預かり保育:職員間の連携を基に安心して過ごせる家庭的な環境づくりと、「子ども子育て支援新制度」移行施設として実施回数確保の工夫を行う ・3歳児親子教室・園開放 親子で楽しく遊べる交流の場と、子を預けることのできる場(3歳児・月2回)の用意、子育て相談や子育て情報の提供を行う。	11 小学校への円滑な接続 ・協同的活動を多く取り入れたり、対話を大切にしたりしながら、互いに認め合い、共に活動する楽しさを味わえるようにする。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で、幼児の体験や育ちの振り返りを行い、指導や接続(引継ぎ)に生かす。 ・小学校見学、職員研修等により、幼小の交流や連携を推進する。	12 研修・研究 ・研修を充実させることにより、職員の資質向上を図り、教育の質を高める。 ・園内研究 幼児が遊び込むことのできる環境作り(2年目)
			13 職員体制 ・職員間(兼務職員も含む)連絡を丁寧にを行い、連携を図る。 ・効率的な事務や会議の工夫をする。 ・事務内容や進捗状況、課題などを共有する。

14 評価方法
園評価アンケート(保護者) 12月
園評価自己評価(職員)7月・12月
関係者評価(学校評議員)2月
人事評価【目標業績・能力】(職員) 1月
結果を園経営に生かす

